



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 105) uniwish32号 (2020年1月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
facebook <http://www.facebook.com/unicef.saga>

2020年もユニセフは、すべての子どもがたくさんの希望を持てるように支援していきます。

“子どもに対する暴力撲滅を”

ユニセフ、30カ国の若者に調査

3分の1が“ネットを介したいじめの経験あり”と回答

【2019年9月4日 ニューヨーク発】

若者の3分の1がネットいじめを経験していることや、5人に1人がネットを介したいじめや暴力のため学校を休んだ経験があることが、ユニセフ（国連児童基金）と子どもに対する暴力に関する国連事務総長特別代表事務所が行った新たな調査で明らかになりました。

【30カ国の若者に調査】

調査は、若者を対象にU-Report（ユー・レポート）と呼ばれる携帯電話を使ったメッセージ・アプリを活用して行われました。U-Reportを通じて匿名で得られたアンケートによれば、ネットいじめではフェイスブック、インスタグラム、スナップチャット、ツイッターといったソーシャル・ネットワークが最もよく利用されていると若者4分の3が回答しています。

「“ネット上のクラスルーム”ができてしまったために、生徒が教室を出ても学校は終わりません。残念なことに、学校の中でのいじめもなくなっていない。」とユニセフ事務局長ヘンリエッタ・フォアは述べました。「若者たちの教育環境を改善するためには、オンラインとオフラインの両方を見なくてはならないのです。」と。

この調査は、SMSやインスタント・メッセージのアプリを使って行われました。そして、若者たちに、ネットを介したいじめや暴力の経験について、いじめをどこで経験したのか、またいじめを止める責任は誰にあると思うか、等についてのアンケートを行いました。「責任は政府にある」と回答したのは32%、「若者自身」が31%、「インターネット企業」をあげたのは29%でした。



© UNICEF/UN0338224/Htet
ミャンマーで開かれたワークショップで、U-Reportを使用する子どもたち。
(2019年8月22日撮影)

■ 子どもへの暴力撲滅に向けたユニセフの活動

ユニセフは、「#ENDviolence（暴力をなくそう）」キャンペーンなどを通じて、学校内外での暴力を撲滅するために世界中で活動しています。また、英国国際開発省、ユネスコ、子どもに対する暴力撲滅のためのグローバルパートナーシップのその他メンバー、国連女子教育イニシアティブ（UNGEI）と連携して、「安全・安心な学校づくり

（Safe to Learn）」というキャンペーンも行っています。今月、一人でも多くの子どもが学校に戻れるよう、またユニセフ「暴力撲滅のための若者によるマニフェスト」の提案に応えるべく、ユニセフは保護者に対し暴力を防止し、撲滅することへの協力を求めています。



「子どもに対する、あらゆる形態の暴力をなくすこと。」

これは、2030年までの世界共通の目標、「持続可能な開発目標（SDGs）」に掲げられた目標の一つです。



© UNICEF/UN017601/Ueslei Marcelino
ブラジルで17歳のときにネットいじめを受けたジェシカさん。(2016年3月撮影)

そしてこの調査結果から、クラスメイト間でのネットいじめは高所得国特有の問題とは限らないことが明らかになりました。例えば、サハラ以南のアフリカの若者の34%は、ネットいじめに遭ったことがあると回答しています。また、39%の若者は、学校コミュニティ内に私的なオンライングループが作られていて、そこではいじめ目的でクラスメイトの情報が共有されているのを知っていた、と言います



© UNICEF/UN0334296/Frank Dejongh
教室の窓枠に座るコートジボワールの子供たち。(2019年8月5日撮影)



- 8月23日（金）附属中学校3年生女子生徒2名
ユニセフ学習で事務所訪問
テーマ：「総合的な学習の時間」のテーマ “SDGs（持続可能な開発目標）” についての調べ学習と体験



- 8月28日（水）、9月4日（水）ユニセフ出前授業
ドリームパーク 神埼小学校夢組と星組
「やってみようボランティア」〈神崎市立神埼小学校〉



- 9月8日（金）弘学館高等学校の文化祭で、生徒会の皆様による
「ユニセフ広報活動」と「ユニセフ募金活動」の協力
文化祭のテーマ：
『Youth comes but once. 青春は一度きり』
〈弘学館高等学校〉



- 9月11日（水）、10月11日（金）、11月11日（月）12月11日（水）イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」
〈佐賀市：イオン佐賀大和店〉

- 9月14日（土）佐賀子ども劇場より
「募金贈呈」と「ミニユニセフ学習」
小学生・大人 22名参加 〈赤松公民館〉



- 9月11日（水）、9月18日（水）ユニセフ出前授業 ドリームパーク神埼小学校
風組と空組 「やってみようボランティア」 〈神崎市立神埼小学校〉

- 9月7日（土）、9月21日（土）、10月12日（月）、11月2日（土）、11月16日（土）
第44回 日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて
トヨタ紡織九州レッドトルネード 募金活動 〈神埼中央公園体育館他会場〉



- 10月1日（火）国際ソロプチミスト佐賀西部「40周年記念式典」にてユニセフへ募金贈呈
〈武雄センチュリーホテル〉

- 10月1日（火）「SDG s 絵画展」審査会 〈佐賀市立図書館〉
応募作品：318点 審査員：井上信宏先生、森和幸先生



- 10月6日（日）2019さが国際フェスタin伊万里 〈伊万里市：市立図書館駐車場〉
「ユニセフと世界の子どもたち」パネル展示
「SDG s ってなあに？」広報

- 10月13日（日）ばぶばぶフェスタ2019 『世界手洗いの日』キャンペーン
ユニセフワークショップで参加 〈佐賀市：アバンセ〉
※ティッピータップ体験（簡易手洗い）※紙芝居 ※手洗いダンス



- 10月27日（日）～31日（金） 第3回 SDG s 絵で伝えよう「私たちの地球」を守る絵画展 【詳細はP4に掲載】
* 27日（日）表彰式、SDG s ミニ研修 * 27日（日）～31日（金）入賞作品の展示〈県庁 県民ホール〉

- 11月10日（日）鹿島市立能古見小学校教育講演会 ユニセフ出前講座 456年生と保護者124名
演題：ユニセフと世界の子ども達 〈能古見小学校体育館〉
～SDG s ってなあに？自分にできることを考え行動しよう～



- 11月11日（月）太良町立多良中学校 ユニセフ出前授業 中学3年 70名
英語：「国際協力」について～ユニセフ活動と世界の子ども達～



- 12月6日（木）佐賀市立大詫間小学校 ユニセフ出前授業 「人権集会」 全校児童 約41名
白石町立有明西小学校 ユニセフ出前授業 「人権集会」 全校児童 約141名
テーマ：「世界のともだちと未来をつくろう」



- 12月13日（金）神崎市立脊振小学校 ユニセフ出前授業 「人権集会」 全校児童 64名
テーマ：「世界のともだちと未来をつくろう」

- 12月18日（水）嬉野市立吉田中学校 ユニセフ出前授業
テーマ：「ユニセフ活動とSDG s」中学1・2・3年生 48名

- 12月19日（金）国際ソロプチミスト佐賀西部会員研修会 ユニセフ出前卓話
20名 〈武雄センチュリーホテル〉



- 12月23日（月）成瀬中学校 生徒会より 募金贈呈 〈成瀬中学校〉



ご支援 ありがとうございます

佐賀リハビリテーション病院様 天山カントリークラブ北コース様 佐賀清和中学校様 弘学館高等学校生徒会様
佐賀子ども劇場様 国際ソロプチミスト佐賀西部様 能古見小学校PTA様 母子草様 弘堂国際学園様
EXCELアムール店様 ドゥース様 トヨタ紡織九州レッドトルネード様 佐賀市文化会館様 アルタ開成店様
アルタ高木瀬店様 TSUTAYA 鍋島店様 東洋館様 恵比寿鍼灸整骨院様 えんびつ館様 ぎょうざ屋様
団野法律事務所様 New・モア様 サンシャレー様 成瀬中学校様 グランデはがくれ様 三瀬そば様
麻生外語観光&製菓専門学校ブライダル・ウェディング科様 ホテルニューオータニ佐賀様 佐賀シール工業様
ふくしま薬局通小路店様 西国御領風羅坊様 栗原内科消化器科医院様 開成小学校様
菖蒲ご膳様 佐賀空港ANA FESTA 様 佐賀空港一番館様 レストランカンフォーラ様 (株)北島様
多布施クリニック様 旅館あけぼの様 イエローハットモンテ太陽本庄店様 イエローハットモンテ太陽医大通り店様
ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様 川崎自工様 Hair H&M EXCEL本庄店様 手打ちうどんそば夢心様
いっせい麺処様 ガイルス・ライブハウス様 村岡屋駅南本町店様 村岡屋卸本町店様 最所法律事務所様
山小屋ラーメン南佐賀店様 佐賀ギター音楽院様 れすとらん志乃県庁店様 H&M EXCEL W.E.N.S 様
国府団地資源物回収協力会様 矢山クリニック様 佐賀市役所川副支所民生児童委員協議会様
浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟ウインタースクール様

子どもの本屋ピピン様 循誘公民館様 佐賀大学医学部基礎研究棟様 神埼小学校様 久保田鮮魚店様
神埼ドリームパーク様 コープさが生活協同組合新栄店様 ホワイティクリーニング様 ポリテクセンター様
佐賀銀行文化財団様 佐賀玉屋物流係様 大塚製薬佐賀工場様 かさざき福祉会様 (株)ヨネザワ様
佐賀空港様 (株)イワフチ様 ヘルスランチあららぎ様 諸富公民館様 田中電子工業様 (株)ウチダ様
西与賀公民館様 富安造園様 第一生命労働組合佐賀支部様 ニチレキ(株)様 (有)蓮池衛研工業様
佐賀市国際交流協会様 損保ジャパン日本興亜佐賀支店様

イオン佐賀店様 スーパービバホーム佐賀店様 ゆめタウン佐賀店様 佐賀玉屋様 イオンモール佐賀大和店様
ホームワイド佐賀大和店様 コープさが新栄店様 ゆめマートさが様 A コープララベル鹿島店様
フレスポ鳥栖店様

矢ヶ部小学校様 柳川市教育委員会様 佐賀商業高等学校様 北稜高等学校様 佐賀清和高等学校様
佐賀西高等学校様 佐賀東高等学校様 三養基高等学校様 佐賀北高等学校様 田代小学校様 佐賀大学様
弘学館高等学校様 龍谷高等学校様 佐賀女子高等学校様 佐賀女子短期大学様 佐賀学園高等学校様
高志館高等学校様 ボーイスカウト鹿島第1団様 ボーイスカウト佐賀第5 団様 鹿島水の会様

(順不同:2019 年8月 21 日 ~2019年12 月31 日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。

個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

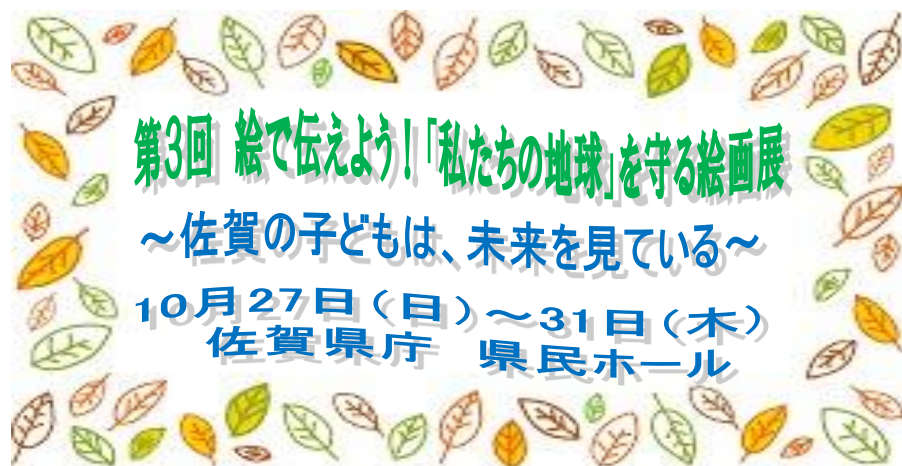
(公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。)

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
 2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
 3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ✿詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。



“地球に人間が住み続けられるようにするために”
あなたのアイデアを絵に書いてみませんか。

作品募集

SDGs 第3回 絵で伝えよう!『わたしたちの地球』を守る絵画展

地球上のすべての命は大切なもの。また、みんなが住む地球も1つしかない大切なものです。その地球には解決しなければならない課題がたくさんあります。「2030年までの世界の共通目標 (SDGs)」17の目標の中から「人間がずっと地球に住み続けられるようにするためにどうしたらよい?」考えることを絵に書いてみましょう。そして、自分たちに「今できること」に取り組みたいと思います。

●応募資格 佐賀県内の小・中・特別支援学校の児童・生徒。
●応募作品 4つ切用紙 (280mm×440mm) 絵画で題材は問わない。
●応募は一人1点のみ。
●提出締切 令和元年10月13日(金) 学校で取りまとめて佐賀県ユニセフ協会へ持参。
●提出方法 もしくは、郵送する。
●審査表彰 (1) 選定された作品は、本会に預けられます。
(2) 「小学校低学年の部」「小学校中学年の部」「小学校高学年の部」「中学生の部」4部門で行う。

●表彰区分 日本ユニセフ協会会長賞1点、佐賀県ユニセフ協会会長賞2点、佐賀新聞社賞1点、入選・佳作各部門5点。
●作品展示 令和元年10月27日(日) 佐賀県庁 県民ホール
令和元年10月28日(月)~10月31日(木) 佐賀県庁 県民ホール
●表彰式 佐賀県ユニセフ協会
●共催 佐賀新聞社
●後援 佐賀県教育委員会、佐賀県小中学校校長会、佐賀県教職員会、サガテレビ

第2回 特別賞入賞作品(2018年度)

【お問合せ・連絡先】佐賀県ユニセフ協会
〒840-0904 佐賀市東二丁目4番2号
TEL/FAX 0952-28-2077
E-mail: unicef@aga.jp web: unicef.jp

学年 分類	小学低 学年	小学中 学年	小学高 学年	中学生	応募 総数
応募数	28点	37点	68点	185点	318点

* 20市町全部からの応募がありました。 * 小学校25校、中学校12校、合計 37校からの応募がありました。



SDGs絵画展の主旨は、

◆地球上のすべての命は大切なもの。また、みんなが住む地球も1つしかない大切なものです。

その地球には解決しなければならない課題がたくさんあります。貧困や飢餓、紛争や自然災害などで地球上のたくさんの人々が命の危機に直面しています。今地球上のみんなが知恵を出し合い、「人間がずっと地球に住み続けられる未来」をつくるにはどうしたらよいか、しっかり考え、行動を起こし、解決策を見出していかなければなりません。

国連では2015年に「2030年までの世界の共通目標 (SDGs)」17の目標を決めて、2030年までに課題が改善するように推進をしています。

◆ 佐賀県ユニセフ協会では、17の目標の中から、自分にできることやみんなでき取り組みたいことを考え絵に表すことを通して、「私たちの地球」を守ろうという気持ちを育てたいと考え、この絵画展を開催しています。

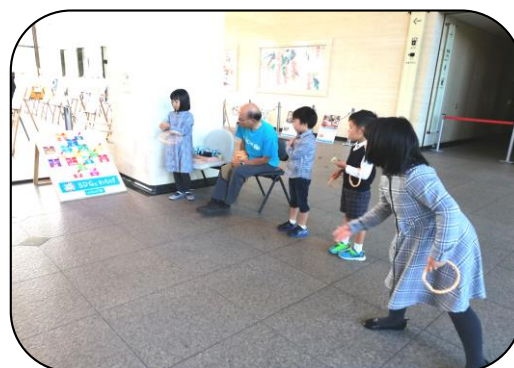
SDGsとは、“世界を変える17の目標”です。

“誰一人取り残さない”

2030年の地球を
ユニセフとともに
考えよう



【絵画の展示を見る参加者】



【SDGs輪投げゲームで遊ぶ子ども達】

★SDG s 絵画展 表彰式

【10月27日(日) 11:00~12:00】 (佐賀県庁 県民ホール)

- ①主催者の挨拶 (中尾清一郎会長より)
- ②入賞者の表彰 個人30名、学校賞3校、
- ③審査講評 (井上信宏審査員より)
- ④ミニ研修『SDGsで世界の人々と未来をつくらう』
- ⑤記念撮影



【挨拶をする中尾会長】

国連の温暖化サミットでは、スウェーデンの少女グレタ・トゥーンベリさんが、地球温暖化対策を厳しく訴えていました。私たちは矛盾を抱えるが地球を守る行動は重要です。皆さんの作品からも啓発されました。



【表彰の様子】



【井上先生による審査講評】

SDG s についてもよく耳にするようになり、今回は中学生の応募が大変多く、作品の質が高くなってきた。メッセージ性の強さを観点において審査した。

日本ユニセフ協会会長賞の三原さんの作品は刻々と変わる環境を砂時計で上手に表現し、時間が無いという願いが伝わった。

★SDG s ミニ研修

◆表彰式には、保護者や関係者の方々も多く出席してくださいました。佐賀県全域から、受賞者は勿論、引率の保護者や受賞された学校の先生方もおいでいただきましたので、『SDG s で世界の人々と未来をつくらう』という表題でミニ研修を行いました。

★入賞者の集合写真



★ 絵画展優秀作品

<日本ユニセフ協会会長賞
5年 三原杏樹さん>



<佐賀県ユニセフ協会会長賞
2年 泊 和歩さん>



<佐賀県ユニセフ協会会長賞
6年 原田美玖さん>



<佐賀新聞社賞
4年 泊 佳音さん>



<佐賀新聞社賞
中学1年 江口花奈さん>



<佐賀新聞社賞
中学2年 久保陽菜々さん>



すべての子どもに
生きるチャンスを

Paddington
Bear



第41回 ハンドインハンド 募金活動 2019年のテーマ:

“すべての子どもに生きるチャンスを”

佐賀県ユニセフ協会では、41年目の「ハンドインハンド募金活動」を地域のボランティアを募り、11月末から12月にかけて県内各地で募金活動を、また、企業や店舗様には、1年間募金箱を置いていただいた分の回収もさせていただきました。そこでは、個人・学校・団体・企業等々、多くの皆様方からたくさんのご支援をいただきました。

皆様からお預かりした募金総額は、**2,352,019円**にもなりました。ここに感謝を込めてご報告申し上げます。誠にありがとうございました。

街頭募金活動は、11月30日、12月1日、8日、15日、23日、24日の6日間、10会場で実施しました。特に今年は、高等学校や短大などから若い世代のボランティアさん達が多く集まり、**総勢349名**もの方々がご協力をしてくださいました。誠にありがとうございました。

募金総額 ¥2,352,019

ボランティア協力者 349名

小さな子どもから若い世代ご高齢の方まで、幅広い年代のボランティアさんたちにご協力をいただきました。ボランティアの皆様は「ユニセフ募金にご協力をお願いします!」「4円で一年分のビタミンA一人分になります!」「ありがとうございます!」と元気な声で協力を呼びかけてくださいました。ボランティアの皆様の熱い思いはお客様の心に届き、たくさんのご協力をいただきました。

ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアの皆様、募金箱に温かいお気持ちをにお寄せいただいた多くの皆様、快く会場をご提供くださった企業の皆様、ありがとうございました。



【佐賀玉屋店前】



【ゆめタウン佐賀店前】



【鹿島 ララベル店前】



【イオン佐賀大和店前】

今世界では、年間530万人の子どもたちが5歳の誕生日を迎える前に亡くなっています。6秒に1人、幼い命が失われています。ユニセフは子どもたちの命と健康、未来を守るために支援をしています。今回集まった募金で、自然災害や干ばつ、飢饉や紛争などで栄養失調や病気になっている子どもたちに栄養治療食や経口補水塩、予防接種ワクチンなど緊急に必要な支援物資を送ります。(下記は、支援物資の一例です。)



© UNICEF/UN061432/Dejongh



栄養治療食
1袋=30円



経口補水塩
1袋=6円



経口ポリオワクチン1回分-14円



大きめの毛布
1枚=528円

○ボランティア協力をしてくださった皆様

佐賀商業高等学校様 北陵高等学校様 清和高等学校様 佐賀学園高等学校様 佐賀東高等学校様 高志館高等学校様 龍谷高等学校様 佐賀西高等学校様 佐賀北高等学校様 三養基高等学校様 弘学館高等学校様 佐賀女子高等学校様 佐賀女子短期大学様
矢ヶ部小学校様 柳川市教育委員会様 ボーイスカウト佐賀第5団様 田代小学校様 ボーイスカウト鹿島第1団様 浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様 (※個人の方のお名前は控えさせていただきます。)

○会場をご提供くださった企業様

イオン佐賀店様 スーパーセンタービバホーム佐賀店様 イオンモール佐賀大和店様 ホームワイド佐賀大和店様 ゆめタウン佐賀店様 フレスポ鳥栖店様 佐賀玉屋様 コープさが新栄店様 ゆめマート佐賀店様 佐賀玉屋様 Aコープララベル鹿島店様



各会場の様子



11/30 ゆめタウン佐賀店 (1回目)



12/1 イオン佐賀店
スーパービバホーム佐賀店



12/8 イオンモール佐賀大和店
ホームワイド佐賀大和店



12/8 フレスポ鳥栖店



12/15 佐賀玉屋



12/15 ゆめマートさが店



12/15 コープ 新栄店



12/15 ゆめタウン佐賀店 (2回目)



12/22 A コープ ララベル鹿島店



12/24 浄土真宗本願寺派少年連盟様

unwish の仲間たち!

ボーイスカウト 鹿島 第1団のみなさん ー鹿島市ー



「ユニクロ衣料回収プロジェクト」をする ボーイスカウト鹿島第1団の皆さん



ユニセフ募金(58・12・31)

【37年前のユニセフ募金活動の懐かしい写真】
ボーイスカウト鹿島の奉仕活動の歴史は長い

ボーイスカウト鹿島第1団の歴史とエピソード

- ◆**歴史**: ボーイスカウト鹿島第1団の歴史は大変古く、70年ほどさかのぼる。昭和23年に「藤津第1隊」として北鹿島で結成され、昭和29年町村合併で鹿島第1団となる。当初は、第1団から第7団まであり、約200名ほどの隊員がいて、奉仕活動に励み、佐賀県庁前での交通整理のコンテストもボーイスカウトで行われていたというエピソードも残っている。今の市長や前市長もボーイスカウト鹿島の隊員として活躍されており、地域での青少年の健全育成に大いに寄与されてきた長い歴史がある。昭和59年には、鹿島駅前清掃で社団法人「小さな親切」表彰なども受けられている。平成10年に第3団と第7団が統合し現在の第1団に至る。
- ◆**活動理念**: キーワードは“なろう一人前”。野外活動の「遊び」や「奉仕活動」を通して子どもの健全育成を目指している。「奉仕の心」や「自主性」などを育てていくことを活動の理念とされている。
- ◆**組織数**: 現在、総数15名。ボーイ2名(小学6年～中学3年)、カブ6名(小学3年～小学5年)、ビーバー7名(小学1年～小学2年)。



スキー活動を楽しむ子ども達

冬の季節に応じた遊びとして、毎年、スキー活動を取り入れている。天山スキー場を会場に、全隊員が冬ならではの遊びを満喫している。



「しめ縄づくり」にチャレンジ

新年を迎えるための年末の行事を体験することで、「日本人の心」を育むことを願い、毎年この時期に「しめ縄づくり」を体験活動として行っている。仕上がりがよく、子ども達は大満足である。



ボーイさん達による「キャンプ」

ボーイスカウトの活動では、必ず夏にキャンプを取り入れている。1泊2日や2泊3日で行い、かまどで3食を炊き、テントで寝泊まりをする。自分で考え行動できる主体的な大人になってほしいと願っている。

◆ユニセフとの関わり【ララベル店での募金活動】(2019年12月22日)

今年も、暮れの「ユニセフ ハンドインハンド」募金活動にボーイスカウト鹿島第1団の皆さんがボランティアとして参加してくださいました。カブさんやビーバーさん達が多く、元気な声で『ユニセフ募金にご協力くださいあい!』と呼びかけてくれました。お買い物に来られたお客様は、子ども達の頑張っている姿に目を細め、足を止めて募金をしてくださいました。大活躍でした。



募金活動の様子

◆**今後の展望など**: ボーイの指導者中島さんは、ご自身が13歳の時から隊員となり、50年もの長きに渡ってボーイスカウトに関わってこられている。「今は、少子化や部活動が盛んで奉仕活動など顧みられないところがあり。人づくりの成果が出るためには長いスパンがかかる。しかし、若い世代の隊員経験者がボーイスカウトの指導者として戻ってきており、次世代が育っていることが嬉しい。」と話された。含蓄のある言葉だった。

(語り: ボーイスカウト鹿島第1団 代表 中島来様、平田佳代様、取材: 江島きよ子)